



02 2025年下期メッセージ

03 お客様の声

04 特集 グループ最高位の表彰制度 BGAをご紹介します!

14 特集 タイヤの価値が「循環」し続ける未来へ

20 ブリヂストン創業者・創業の地プロジェクト

22 こんにちは アローです!

— ブリヂストンタイヤソリューションジャパン (株) 専務執行役員 兼 ブリヂストンタイヤサービス 東日本 (株)・西日本 (株) 代表取締役社長 仲村 克則さん

24 師匠と弟子

— (株)ブリヂストン 久留米工場・鳥栖工場

26 当世海外事情

— ブリヂストン ミドルイースト アンド アフリカ エフゼットイー

28 わが町・わが職場・わが仲間 — 栃木県 (前編)

31 Arrow News Clips

32 ありがとうの気持ち 読者プレゼント

2025年 下期メッセージ

上期の振り返りと下期に向けた
グループ従業員の皆さんへの
メッセージを伺いました。

「変化をチャンス」 に変え、 質を伴った成長へ



(株)ブリヂストン
代表執行役 副社長
BRIDGESTONE EAST CEO

田村 亘之

上期を振り返って

皆さん、こんにちは。BRIDGESTONE EAST CEOの田村です。

下期を迎えるに当たり、上期の振り返りとさらなる価値創造に向けた活動についてお話ししたいと思います。上期は米国関税影響などにより、グローバルで先行き不透明な事業環境が続く、大きな変化が起きています。そうしたなか、皆さん一人ひとりが現物現場を大切にしながら、さまざまな工夫や改善、そして新たな取り組みに挑戦していただいたことに、心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

第1四半期業績においては、調整後営業利益で対前年減益となりました。一過性の要因を除くと若干の増益となるものの、厳しい状況が続いています。一方で、高付加価値タイヤの拡販や、販売MIXの改善は継続し、強固なプレミアムタイヤ事業基盤は維持・強化することができました。さらに、欧米を中心に着手している再編・再構築（第2ステージ）が、利益に貢献し始めるとともに、地道なグローバルビジネスコストダウン活動が、業績を下支えしました。

緊急危機対策年として

2025年は「緊急危機対策年」と位置づけられており、将来に向けて「質を伴った成長」の基盤を構築していく必要があります。再編・再構築、ビジネス体質強化といった「守り」

の活動を最優先に、地道なグローバルビジネスコストダウン活動や、「断トツ商品」の強化、戦略事業である生産財系BtoBソリューションの拡充といった「攻め」の活動を両輪で実行しています。下期においても米国関税影響を受け、引き続き先行き不透明な事業環境が続きますが、「変化をチャンス」と捉え、ビジネス体質をより強化していきます。

通期業績見込は、2月に対外発表した調整後営業利益額 5,050億円から変更しません。米国関税の直接的な影響として、約450億円を想定していますが、「守り」と「攻め」の活動の強化、グローバルでのリーン化や、ブリヂストンの強みであるグローバルサプライチェーンの最適化、「変化をチャンス」へ変える米国事業の強化などで、打ち返す前提です。

ただし、業績見込に織り込んでいない経営リスクとして、米国内景気減退の影響を約200億円レベルと見込んでいます。今後、グローバル各市場における景気減退リスクなども含め、感度鋭く持ち、迅速に対策を実施することが求められています。

変化をチャンスへ

「変化をチャンスへ」変えるという姿勢は、ブリヂストンのDNAでもあり、これまでさまざまな変化に対応することでブリヂストンは成長してきました。皆さんが変化に対応していく過程は、皆さん自身の成長にもつながり、この経験は今後のキャリア形成においても、重要になると考えています。嵐は風が

強いほど、高く上がります。皆さん一人ひとりが、強い危機感と覚悟を持ち、厳しい現状から逃げず、それぞれの役割責任において、「熟慮断行」していきましょう。

この2025年の活動が、2026年、さらには2031年、ブリヂストン創立100周年に向けた「質を伴った成長」の基盤になると考えています。

下期に向けて

皆さん一人ひとりが本気で取り組む先に、成功があります。チャンスはいつも、ピンチという着ぐるみの中にいます。「変化をチャンスへ」変えるという姿勢を忘れず、おのおのが目の前の壁を見て落ち込むのではなく、壁の先の姿を見てワクワクし、チーム一丸となって頑張っていくでしょう。

最後になりますが、ブリヂストンの全ての活動の起点は、使命「最高の品質で社会に貢献」です。この使命を実現する最善策は、「ブリヂストン独自のデミング・プラン」に沿って、現物現場で、業務品質の向上を目指すことです。皆さん一人ひとりが役割責任を常に自覚し、オーナーシップを持って、現物現場、対面コミュニケーション、チームワークで生産性と創造性を向上していきます。そして、全ての活動の基盤は「安全はすべてに優先する」です。

皆さんのみならず、ご家族やパートナーを含めて、健康にこの下期を過ごされることを念じています。

Voices お客様の声

グループ各社に寄せられたお客様の声を紹介します。
さらにお客様のご期待に応えられるよう、情報源として役立てていただければ幸いです。



お客様の声の全文は
Web版Arrowをご覧ください！

- ❤️ お礼・お褒めの言葉
- ❓ お問い合わせ
- ★ ご意見・ご要望

❤️ お礼・お褒めの言葉

寒い日のお出掛けも苦になりません

電動アシスト自転車「アシスタU STD」を購入してから3年半くらい経ちました。購入する時は、頑張って普通の自転車に乗ればトレーニングにもなるかと考えましたが、そういう年齢でもないなと思い、電動アシストを買いました。

普通の自転車では、買い物帰りに荷物をカゴに入ると上り坂で漕げなかったのですが、電動アシスト自転車だと坂を上れて本当にありがたいです。この電動アシスト自転車はいろんな色があり、私は他の自転車にはあまりない大好きなオリーブ色を選びました。とても気に入っていて、乗ることがうれしくて出掛けるのが全然苦になりません。風があっても寒くても、防寒をして乗れば快適。

人間動かないとポケチャウと聞きますが、私が動けるのは、本当にこのブリヂストンの自転車のおかげです。感謝しています。
(女性)



「アシスタU STD」の詳細はこちら



❤️ お礼・お褒めの言葉

「REGNO GR-XIII」のすごさは想像以上

「REGNO GR-XIII」を買って装着しました。今まで中級グレードのタイヤを使用していたためかもしれませんが、10メートル走っただけでそのすごさを感じました。想像以上です。ハンドルを切ったときの応答性も抜群で、スポーツタイヤに変わったかのような印象がありました。静粛性、乗り心地とハンドリング性を兼ね備えていることに驚きです。他の人もこのタイヤを履けば良いのと思うほどです。とにかくすごすぎたので電話をさせてもらいました。現在持っている他の車も、「REGNO」に換えようかと思いついています。
(男性)

❓ お問い合わせ

「REGNO」のサイズ展開についてのお問い合わせ・ご要望

今までずっとセダンのタイヤに「REGNO」を使用しており、大変満足しています。この度、車をクラウン（セダン）に買い替えたのですが、この車は「REGNO」を履けないことに気づきました。標準装備だとタイヤサイズは235/55R19ですが、オプションでブラックパッケージを選択したところ、サイズが245/45ZR20 103Yとなり、「REGNO」では展開がないサイズでした。今まで当たり前のように「REGNO」を履いてきた私にとって青天の霹靂で、非常にショックでした。何とかして「REGNO」を装着できる方法はないでしょうか。
(愛知県・男性)

トヨタの新型クラウンに乗っていて、タイヤ交換を検討しています。245/45R20サイズの商品はありますか？「REGNO GR-XIII」では、このサイズはないでしょうか？今後発売予定はありますか？
(大阪府・男性)

トヨタのクラウンクロスオーバーに装着できる、225/45R21サイズの「REGNO」は発売されないでしょうか。以前からずっと「REGNO」を使用してきたので、今回も購入を検討しています。
(男性)

ブリヂストンの対応

いずれも現在「REGNO」ブランドではご要望のサイズ展開がないことをご説明し、他ブランドでサイズ展開がある場合はその商品についてご紹介しました。

グループ最高位の表彰制度 BGAをご紹介します！



BGA (Bridgestone Group Awards) は、全組織・全従業員を対象としたブリヂストングループのグローバル最高位の表彰制度です。今回は、BGAの概要とBGA2024の表彰案件2つをご紹介します。

グローバル最高位の表彰制度BGA

ブリヂストングループのビジョンの実現、中期事業計画（2024-2026）（以下、24MBP）に沿った優れた取り組みをグローバル経営チームの皆さんが審査し、特に秀でたものを選定、その功績と功労を表彰します。

表彰式や社内コミュニケーションを通じて、優れた取り組みをグローバル全体で共有することで、従業員の誇りや、さらなるやりがいにつながると同時に、一人ひとりの意識向上・一体感の醸成を図る重要な役割を担っています。従業員によるさまざまな活動を波紋の輪のような持続的な広がりにつなげ、「Bridgestone E8 Commitment」を軸とした価値創造を増幅していくものです。

表彰区分

BGA2025では、従業員皆さんの活動が、ブリヂストンの成長・価値創造に貢献していることを明確にするため、表彰区分と選定基準を刷新しました。

「2030年長期戦略アスピレーション（実現したい姿）」を北極星・道筋に、グローバルで活動を具体化している24MBP。これに沿って、BGA2025では、4つのビジネス具体化シナリオに、社会貢献活動／サステナビリティ活動を加えた5つの項目が表彰区分になりました。



表彰区分	(参考) 対象事例の考え方	(参考) 表彰例 BGA2024表彰事例を2025年表彰区分に当てはめた場合	
ビジネス具体化シナリオ	1 良いビジネス体質を創る	■ 事業基盤構築 ・人的創造性向上 ・DX	■ サステナブルで人にも環境にも優しい企業に向けたBAEの変革 ■ 彦根工場における女性活躍を起点にCulture Change
	2 良いタイヤを創る ※化工品・多角化商品を含む	■ 断トツ商品力強化 ・ENLITEN® ・BCMA ・モノづくり など	■ REGNO GR-XIII立ち上げによる国内向けENLITEN GEN1モジュール具現化 ■ 中国EV時代におけるBSCNの戦略的アプローチ
	3 良いビジネスを創る	■ 地道なグローバルビジネスコストダウン ・グローバル調達／SCM物流改革 など ■ チャネル力強化 ■ サステナブルなグローバルモータースポーツ推進	■ BSROにおける車両点検のデジタル化 ■ 「稼働力の強化」推進による全社業績への貢献 -ORビジネス-
	4 良い種まきを実施し、新たなビジネスを創る	■ ソリューション事業 ■ 探索事業	■ アマゾンのラストマイルビジネスを支えるフリート向けプログラムの提供 ■ 樹脂配管／積水ハウスとの共創による環境貢献と事業拡大
5 社会価値を創造する	■ 社会貢献活動 ■ サステナビリティ活動 など	■ イタリア赤十字社との共創を通じた若年層向け交通安全活動	

BGA2025選考プロセスとスケジュール



表彰

BGAの表彰式は、表彰案件決定の翌年に、新たな価値創造に向けたイノベーション拠点であるBridgestone Innovation Parkにて開催されます。

受賞者の皆さんは、表彰式の前日に石橋正二郎資料館やBridgestone Innovation Galleryなどを見学し、ブリヂストンの歴史やDNA、未来に向けた取り組みについて理解を深め、表彰式後には、創業者にゆかりのある鳩林荘にて、取締役やG-EXCOメンバー、常務役員を含む経営層から受賞者の皆さんへ感謝の気持ちが伝えられます。



REGNO GR-XIII立ち上げによる 国内向けENLITEN GEN1モジュール具現化

BCMA子商品の効率的立ち上げによる国内プレミアムタイヤビジネス貢献

商品設計基盤技術「ENLITEN®」を日本国内で初めて市販用タイヤに搭載した「REGNO GR-XIII」。多くのチームメイトと一体となって顧客価値と社会価値との両立に取り組みました。今回は商品企画、設計に携わった皆さんにお話を伺いました。



ブリヂストンタイヤソリューションジャパン (株) 商品企画本部 消費財商品企画部
野上 紗緒里さん

乗用車用市販用タイヤの商品企画を担当。市場のニーズを分析し、新商品のコンセプトを検討。市場への導入プラン検討やプロモーション活動も推進。



(株)ブリヂストン ENLITEN製品企画部門 PSタイヤ製品企画第1部
石渡 勝也さん

消費財商品企画部が練り上げたコンセプトに技術的な観点から製品の形にしていく役割を担う。



(株)ブリヂストン タイヤ開発第3部門 PSタイヤモジュール設計第1部
後藤 史也さん

設計部門として、量産工場と連携し、製造するタイヤが目標のスペックを満たしているかの検証と改善を担当。

空間品質と走行性能、 環境性能を高次元で両立

—— 2024年2月の発売以降、「REGNO GR-XIII」の販売状況を教えてください。

野上 「REGNO GR-XIII」(以下、「GR-XIII」)は2024年2月に発売されましたが、売れ行きは好調です。販売サイトではお客



様から多くの口コミが寄せられ、ご好評を頂いています。「REGNO」は、静かで乗り心地が良いブランドとして、ブリヂストンの乗用車用タイヤのなかでも市場の評価がひときわ高いタイヤです。ラテン語で王者を意味する「REGNO」は、1981年の発売以来、グレートバランスという普遍の設計思想のもと、タイヤに求められる全ての要件を満たし、完全であり続けることを目指しています。

そして今回、新商品となった「GR-XIII」は、商品設計基盤技術ENLITENを搭載することで、従来品の「GR-XII」から全ての性能を拡張。静粛性はもちろん、ハンドリング性を大幅に向上させることで「REGNO」らしい空間品質と走行性能を実現しました。これがREGNO FEELINGです。さらに環境性能も高めることで新たな「THE GREAT BALANCE®」を完成させました。

—— 開発に当たって、どのようなコンセプト検討を行ったのでしょうか。

野上 「GR-XII」は、上質な静粛性能と優

雅な乗り心地で、お客様や販売店からの満足度が非常に高い商品です。後継商品となる「GR-XIII」の開発に当たっては、これまで受け継がれてきた「REGNOらしさ」を追求しつつ、新たに顧客ターゲットに設定した、欧州プレミアム車種やEVユーザーの方々にも購入いただける商品にするためにはどうすればいいのか検討することから始まりました。

石渡 検討を進めるなかで、プレミアムタイヤ事業として“新たなプレミアム”を創造するために、顧客価値と社会価値を両立したコンセプトを掲げることになりました。そして、顧客価値と社会価値、この2つの価値を具現化し、両立するのがENLITENです。ENLITENは「走る・止まる・曲がる」などさまざまな使われ方を想定してタイヤの基本性能を全方向で向上させ、より求められている性能をさらに向上、エッジを効かせることで、「究極のカスタマイズ」を実現する商品設計基盤技術です。

このENLITENをコンセプトに取り込むことによって、タイヤに求められる価値



の変化に合わせて、省資源や環境負荷低減を実現することで社会価値を、さらに「REGNOらしさ」である「THE GREAT BALANCE」を追求しつつ、空間品質・走行性能を向上させることで顧客価値を提供する。これらの点を軸にコンセプトの検討をしました。

—— ENLITENを搭載したタイヤの開発は、従来のタイヤ開発と比較して考え方や手法に変化はありましたか。

石渡 はい。ENLITENを搭載した「GR-XIII」の開発では、従来と根本的に考え方を変えています。従来のタイヤ開発では、何かの性能を上げるためには、技術や材料を継ぎ足す発想でしたが、サステナブルなソリューションカンパニーを目指す我々は、商品設計基盤技術であるENLITENによって「薄く・軽く・円く」で省資源、高付加価値なタイヤを実現するために、本当に必要なものだけを残して洗練していく必要がありました。

後藤 石渡さんも言われたとおり、足し算から引き算へと考え方を180度変えたことです。例えば従来の足し算の考え方であれば、部材を足し、重くすることでタイヤの剛性が増し、しっかりした乗り味を実現できます。しかし、ENLITENで「薄く・軽く・円く」を追求するためにはその手法は許され

ないわけです。この前提でREGNOらしい乗り味を追求していくのは非常に困難でした。設計で最後の最後まで苦戦したのがREGNOらしい空間品質と走行性能を高い次元で両立することでした。

「GR-XII」よりも全ての性能円で優れていることは絶対条件ですが、何か1つの性能をとがらせると必ずどこか別の性能がへこんでしまう。とがらせた性能はキープしたままで、別の性能をへこませることなく、どれだけ性能円を全方位で大きくできるか。従来のように足し算の発想はできないなかで



「GR-XIII」の性能円。全ての性能で「GR-XII」を上回り、エッジを効かせている

の最後の調整は本当に難しかったです。

石渡 また、サステナビリティを経営の中



核としているなかで、「GR-XIII」の開発においても環境性能をどう追求していくか検討を重ねてきました。ENLITENの考え方に基づき、部材の使用量を減らすことで、省資源化を実現しています。さらに、タイヤ単体の重量が軽くなることで、生産や輸送におけるCO₂排出量を削減することができています。

加えて、再生資源・再生可能資源を使用することで、資源循環性を高め、社会価値も両立した商品になりました。

REGNOらしい乗り味の実現

—「GR-XIII」で深みを増した「空間品質」とは具体的にどのようなものなのでしょうか。

後藤 まず1つ目が乗り心地です。「GR-XIII」を履いた車に乗った瞬間に劇的に改善されたと感じ取れない方もいらっしゃるかもしれませんが、長時間のドライブの後に、「なんか疲れていない」「酔わなかった」という感覚は多くの方に感じていただけたと思います。

2つ目が静粛性です。静粛性については多くの方に実感していただけたと思いますが、本当に静かです。

REGNOらしい乗り心地や深みを増した空間品質によって、「Bridgestone E8 Commitment」の「Ease」と「Emotion」に貢献した性能を実現することができました。

石渡 私も自分の車を「GR-XIII」に履き替えた後、車内で流す音楽の音量が元のまままだとうるさく感じる程でした。個人の感想ですが、一度「GR-XIII」を体験してしまうと、次のタイヤにも同じくらいの快適さを求めてしまうくらい静粛性が高いと思います。

野上 実際にお客様からも「今まで使っていたオーディオのボリュームを下げた」「後ろに座る家族と会話がしやすくなった」と

いった声を頂きましたね。ドライブの質が上がったとご評価いただけてうれしく思います。

後藤 実際にタイヤを変えたことで、自動車そのものの性能が上がったように感じられている方も多そうですね。

—実現に当たってはさまざまな部署の方の協力があつたと聞きました。

石渡 最初は「実現できない」と思っていたことも徐々に乗り越え、最終的にはできるようになったことがたくさんあります。特に製造の皆さんの方が苦労されたはず。感謝の気持ちしかありません。

後藤 そうですね。ENLITENによる「究極のカスタマイズ」を支えているのが、モノづくり基盤技術「BCMA」です。「GR-XIII」はBCMAの親商品として、子商品の要求性能までも考慮したモジュールを具現化すべく開発を進めました。このモジュールを量産工場で確実に立ち上げていくに当たっては、シミュレーションや機械学習などのデジタルツールを活用したモノづくりの進化に大きく支えられました。この場を借りて製造技術開発や量産工場の方々に改めて



お礼を申し上げます。

野上 販売店の方々とも何度もコミュニケーションを重ねました。「GR-XIII」は「GR-XII」の同サイズのタイヤと比べて1kg程の軽量化に成功していますが、販売店の方からは軽くなったことに対する不安の声もありました。「GR-XIII」のコンセプトである、軽量化しても性能が従来品を上回っていることをご説明し、新たなターゲットである欧州プレミアム車種やEV車など重量のある車両でも問題ないことをご理



解いただきました。販売店向けの試乗会にはお2人にも協力いただきましたね。

後藤 これまでに10回くらい開催しましたね。我々としても、生の声を伺う貴重な機会になっていますし、関係部門との連携がより深まったと思っています。

—最後に、BGAを受賞した思いと皆さんへのメッセージをお願いします！

野上 振り返ってみると、設計、生産、物流、販売、宣伝、広報など、多くの方がOne Teamで取り組み、受け継いだバトンを販売店やお客様に届けることで、素晴らしい商品を世に広めることができたと思えています。今後も、お客様にご満足いただけるタイヤを提供していきたいです。

石渡 当然私たちは次の製品づくりを進

めていかなければなりません。正直、次の目標をどこに掲げるか困ってしまう程、「GR-XIII」は完成されたタイヤです。「GR-XIII」の各項目を全て上回る製品を生み出すのは、とても困難なチャレンジになると覚悟しています。

ほとんどのメンバーが当初は「実現できない」と思っていた性能をクリアしたこと、国内の乗用車用タイヤとして初めてENLITENとBCMAを具現化できたことを評価いただいたのだと思います。

また、受賞できたことでモチベーションも上がりました。

後藤 そうですね。本当に多くの方に協力していただいて、我々はあくまで代表して表彰されたに過ぎません。みんなが一丸となったの挑戦が評価されたことを誇りに思



います。今後、ENLITENやBCMAにひもづいた新製品がどんどん出てくることにワクワクしています。



樹脂配管／積水ハウスとの共創による 環境貢献と事業拡大

企画・販売 ポリブテンが資源として循環する流れを構築

主に住宅の床下等で給水・給湯用のパイプとして用いられるブリヂストンの樹脂配管。住宅業界のリーディングカンパニーである積水ハウス株式会社（以下、積水ハウス様）との共創により、この樹脂配管の水平リサイクルを実現した皆さんにお話を伺いました。



住宅の床下に設置されているブリヂストンの樹脂配管（イメージ）



(株)ブリヂストン
建築ソリューション事業
企画部
配管事業企画課 主任部員
堀尾 国男さん

樹脂配管の販売企画担当として、ハウスメーカーへの営業促進をサポート。積水ハウス様との窓口を約15年にわたり担当。



(株)ブリヂストン
建築ソリューション事業
企画部
配管事業企画課
伊勢野 康秀さん

堀尾さんと同じく販売企画部門で生産と販売の調整、物流の手配などを手掛ける。本案件では製品の開発部署との調整を担当。



ブリヂストン
化工品ジャパン（株）
住宅開発営業部
住宅開発広域営業課
渡邊 亮憲さん

ハウスメーカー向け営業活動に従事。積水ハウス様の支店や水道工事店など、さまざまな関連会社の窓口対応や工事店向けの施工講習も実施。

施工現場で発生した端材が 次の商品へ生まれ変わる

— 今回の取り組みの概要について教えてください。

堀尾 日本の住宅業界をリードする積水ハウス様との共創により、業界で初めて樹脂配管のマテリアルリサイクルを実現した取り組みです。

ブリヂストンは、ハウスメーカー向けにポリブテン製パイプ「らく楽パイプ」と、差し込むだけで接続できるワンタッチ継手から成る給水給湯樹脂配管システム「プッシュマスター」を展開しており、お風呂やトイレ、台所や洗面所などの住宅設備に水・湯を運ぶ樹脂製の配管システムとして使われています。



プッシュマスター

ブリヂストンは、この領域で大きなシェアを持っており、お客様からご好評を頂いております。このらく楽パイプを、ウレタンフォームとコルゲート管という蛇腹状の外皮で被覆した「らく楽コルゲートパイプ」が、今回の主役です。



らく楽コルゲートパイプ

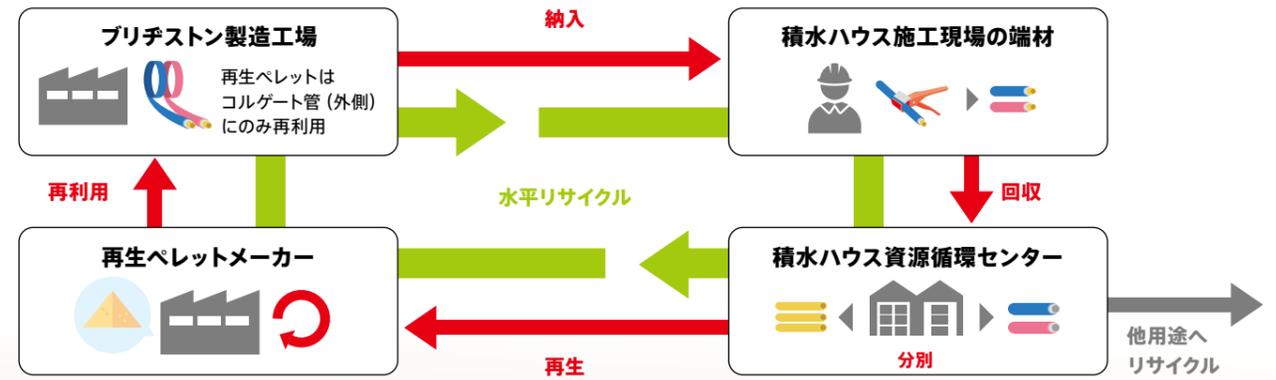
伊勢野 一般的に、給水・給湯用のパイプの内管には、ポリブテンと架橋ポリエチレンという2種類の樹脂が主に用いられています。ポリブテンは、架橋ポリエチレンと比べて曲げやすく、加えて、らく楽パイプはブリヂストン独自の製法によりロールのクセがつきにくいことから施工性に優れ、高付加価値製品として広く支持されています。加えて、現状はほぼサーマルリカバリー（燃料利用）しか

リサイクル方法がない架橋ポリエチレンに対し、ポリブテンはベレット状（粒状）に再加工した後、材料として再利用できる特長を有しています。しかし、一度出荷したものは汚れや異物混入などの品質的な観点からリサイクルが難しく、従来は（株）ブリヂストンの関工場内で製造時に発生する端材のみを再活用する程度にとどまっていた。

渡邊 積水ハウス様は、施工現場で発生する廃棄物を回収後、自社の「資源循環センター」にて分別、それらを100%リサイクルし、次の住宅の資源として循環させる「循環する家」というコンセプトを掲げ、2050年までに住宅に使っている全ての資材のリサイクルを目指しています。ブリヂストンの開発担当が積水ハウス様の資源循環センターのことを知り、2022年の9月に同所を見学。「この仕組みがあればポリブテンパイプのマテリアルリサイクルが実現できるのでは？」と考えたのがきっかけです。

— マテリアルリサイクルの実現に向け、ど

ポリブテンパイプのマテリアルリサイクルの流れ



のような仕組みを構築されたのでしょうか。

堀尾 関工場で製造されたパイプなどの商品は出荷後、協力会社が積水ハウス様の施工現場向けに、必要な分だけをあらかじめ加工し、パッケージ化して配送します。施工時に出た端材は、積水ハウス様の資源循環センターで分別された後、再生ベレットメーカー様でベレット加工され、関工場再度、原材料として利用されます。この一連の流れを構築しました。

伊勢野 仕組みを描くことは簡単ですが、それを実現させるまでは本当に大変で。協力企業の選定から品質保証面での対応、端材の回収エリアやコストまで、検討・調整しなければならぬことが多々ありました。今回の取り組みは積水ハウス様とブリヂストンが課題意識を共有し、パートナーとして一つひとつ課題を解決してきたからこそその成果です。

渡邊 現状、再生ベレットは外皮のコルゲート管に一定割合混入する形で再利用しています。2022年から試作、サンプル提供をはじめ、積水ハウス様の開発部門からの承認を頂き、2024年4月からは実際に供給が始まっています。

一歩を踏み出す行動力が 想いを現実にする

— 実際に運用が始まって1年が経ちました。これまでの手応えは。

堀尾 具体的な環境負荷低減の効果を試算できるのはこれからですが、確かな手応えを感じています。また、積水ハウス様が資源循環センターを訪問されるお客様やお取

引先様に、リサイクル部材の説明をする際、ブリヂストンのらく楽コルゲートパイプを好事例として挙げてくださっているそうで、担当者様からは「ブリヂストンさんから宣伝費用をもらわないと（笑）」といった声も聞こえる程です。

渡邊 積水ハウス様が施工を担当される現場からは、端材もきちんと分別された状態で戻ってきます。ブリヂストンの製品を実際に施行していただく方々のこうした誠実な姿勢が持続的なリサイクルの実現を支えていく原動力なのだと思います。

— BGAを受賞して感じたことや、今後の意気込みをお聞かせください。

堀尾 積水ハウス様も含め、樹脂配管事業に携わるメンバーは「廃棄されるプラスチックのリサイクルによって環境価値を高めたい」という強い思いを持ち続けていて、今回の取り組みを実現する過程で後ろ向きな人は1人もいませんでした。この想いを社内外の皆さんと具現化できたことで、積極的に挑戦し続ける姿勢、課題解決に向けて

協力し合うことの大切さを改めて実感しました。また、問題意識を持っているだけでは物事は前に進みません。この取り組みは、開発メンバーが資源循環センターに「見学させてください!」と直接打診をして、現物現場で情報を集めたことがスタートにつながりました。一歩踏み出す行動力が大事だと感じましたね。

伊勢野 住宅業界のリーディングカンパニーである積水ハウス様は、環境面においても自社のみならず、業界全体を巻き込んだ先進的な取り組みを進めています。我々もサプライヤーとして引き続きサポートさせていただきたいです。

渡邊 今回は「Bridgestone E8 Commitment」の「Ecology」に直接貢献する取り組みを実現できました。また、積水ハウス様の「循環する家」というコンセプトと、ブリヂストンが目指す姿が合致して、お客様にも我々にもメリットが生まれ、共創が実現できたことに満足しています。今後も現場の施工省力化など、さらなる価値を提供し続け、積水ハウス様と伴走していけたらと思います。



ブリヂストンがハウスメーカー向けに展開する、ポリブテン製パイプ「らく楽パイプ」と、差し込むだけで接続できるワンタッチ継手から成る給水給湯樹脂配管システム「ブッシュマスター」。住宅のお風呂やトイレ、台所や洗面所などで水やお湯を運ぶこの商品について、住宅業界のリーディングカンパニーである積水ハウス株式会社（以下、積水ハウス様）との共創により、樹脂配管の水平リサイクルを実現していますが、開発・製造の面からこの取り組みに貢献した皆さんにお話を伺いました。



(株)ブリヂストン
配管開発部 配管開発第1課
間崎 卓明さん

入社以来、17年にわたり樹脂配管の開発に携わり、現在は横浜の化工品技術センターにて、パイプ外被材の設計開発に取り組む。水平リサイクルの実現に向けては、仕様検討・試作検証などを担当し、関工場と連携してプロジェクトを推進。

一度社外に出たものを 原材料として用いるという チャレンジ

——積水ハウス様との共創が決まった際に、皆さんは最初にどのように思いましたか。

間崎 積水ハウス様や再生ベレットメーカー様と、再生材の循環を試行する話がまとまり、関工場側で試作検討を進める段階になったのが2022年の年末でした。以前から、関工場でのパイプ製造時に発生した



(株)ブリヂストン
関工場 技術課
石井 雄也さん

横浜の化工品技術センターで開発に携わった後、2021年からは関工場の技術課にて製造時の条件設定や不具合発生時の対応といった、標準の策定を主に担当。

端材は、すぐに工場内で粉碎して、再びパイプの原材料として用いるリサイクルを行っていましたが、今回は一度出荷され、お客様の現場から戻ってきたものをリサイクルする取り組みです。未使用の端材が対象とはいえ、再生ベレットとしてまた製品に用いることへの不安は小さくありませんでした。

石井 一般的にも「環境を大事にしよう」「持続可能な社会を」と言われてから長い年月が経ちましたが、世の中的にも実現できていることは限られていると思います。自分たちの事業を通じて環境に貢献できるかもしれない、理想が現実になるかもしれない、と思いましたが、一方で、特にさまざまな要件が求められる製品については、従来は原材料にリサイクル由来のものを用いてこなかったため、不安な気持ちもありました。また、間崎さんが言われたとおり、一度社外に出たものを原材料として使うことで、品質や性能に影響は出ないのかという懸念もありました。

畠山 私や製造課の他のメンバーも、「リサイクルの新しい風が吹いてほしい」という気持ちはずっと持っていました。今回の取り組みは時代のニーズとも合致するので、きちんと軌道に乗せたいという思いが強かったです。ただ、「実現まで忙しくなるな…」という



(株)ブリヂストン
関工場 製造課 製造第2係
畠山 裕之さん

入社以来、樹脂配管の製造に携わる。現場で培った視点や知見を活かし、技術課と製造課をつなぐ懸け橋としての役割を担当。



不安な気持ちも大きかったですね(笑)。

取り組みを軌道に乗せるために 立ち上がった いくつものハードル

——活動の中で印象に残っていること、苦労されたことは。

間崎 私自身が関わって苦労したのは、再生ベレットメーカー様の選定です。ブリヂストンの厳密な基準をクリアしたメーカーでなければ、ベレットの製造をお願いできま

せん。環境に関する企業展示会に足を運び、名刺を交換した会社1社1社にコンタクトを取り、社内で求められる基準を満たすメーカーを探しました。2023年の末に、ようやく私たちの希望に合致するパートナーを見つけることができ、取り組みをスタートすることができました。

石井 ポリブテンパイプの端材をリサイクルし、外皮のコルゲート管の原材料の一部として使うわけですが、しばらくの間は、社外から回収できるパイプの量が安定しないことを見越し、別の種類の樹脂も混ぜて検討をスタート。ただ、その樹脂はポリブテンよりも固まりやすい性質があり、外皮の肉厚が不均等になって穴が開いてしまうことが多々ありました。

畠山 外皮を蛇腹状に成型するためには、真空状態で外皮を吸着する必要があるのですが、小さな穴が1つでもあれば、その吸着自体がうまくいきません。製造工程でどう解決していくか頭を悩ませました。温度や原材料の配合量を変え、適切な製造条件を試行錯誤しながら探っていったのですが、間崎さんにも毎週のように横浜から関工場に足を運んでいただいて、一緒に対応していきました。

間崎 2024年秋からリサイクルされた樹脂を原材料に用いたパイプの供給を開始していますが、今のところはトラブルもなく、手応えを感じています。今後、回収でき

るパイプの量が安定化すれば、生産の方も軌道に乗るものと期待しています。



再生ベレット

配管事業を社内外に 強くアピールし、 盛り上げていきたい

——BGAを受賞して感じたことや、グループの皆さんへのメッセージをお願いします。

石井 ブリヂストンはタイヤ事業の割合が大きい会社ですが、ゴムを使わない配管事業も住宅業界では確固たるポジションにいたいと思っています。「らく楽パイプ」は2010年の発売以来、施工性の良さが評価され、いまだに代替の製品が出てこない素晴らしい商品です。もしかしたら、皆さんのご自宅でも使われているかもしれませんよ。



畠山 積水ハウス様と共創して一緒に仕組みをつくり上げたことは、本当に価値のあることだと思いますし、社内外の関係者の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。これからもこの取り組みをしっかりと継続していきたいと思っています。

間崎 積水ハウス様や再生ベレットメーカー様とはこれからも密に連携し、水平リサイクルを通じたサステナビリティへの貢献を続けていきます。また、仲間たちと一緒に、配管事業ももっと盛り上げていきたいと思っています。これからも期待してください！



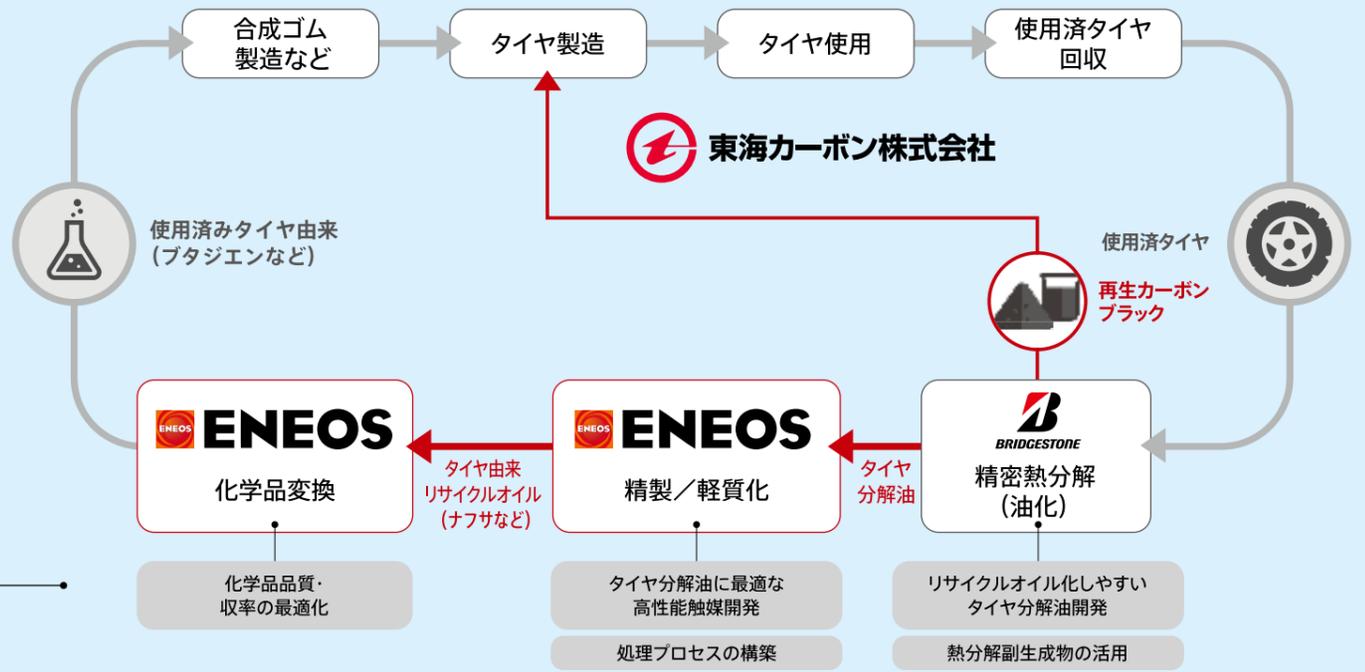
タイヤの価値が「循環」し続ける未来へ

2022年に開始した、「タイヤがタイヤに生まれ変わる」未来に向けた活動“EVERTIRE INITIATIVE”。2050年までに、タイヤが循環し続ける社会をつくるため、社内外で技術開発を進めています。その現状と今後の目指す姿について関係者の皆さんにお話を伺いました。



精密熱分解は、使用済タイヤを細かく砕いたタイヤチップを無酸素状態で加熱し、分解油やカーボンブラックを抽出するプロセスを指します。ENEOS株式会社様（以下、ENEOS様）や東海カーボン株式会社様（以下、東海カーボン様）などの共創パートナーと、これらの抽出物を再びタイヤの原材料として用いる、ケミカルリサイクルの社会実装に向けて協働しています。

精密熱分解によるケミカルリサイクルの概念図



「創って売る」「使う」に加えて、原材料に「戻す」というバリューチェーン全体で“EVERTIRE INITIATIVE”に取り組んでいる

みんなで一緒に未来をつくっていくために

“EVERTIRE INITIATIVE”の主幹部署である(株)ブリヂストン リサイクル事業準備室の皆さんに、目指すビジョンや取り組みについてお話を伺いました。



(株)ブリヂストン
リサイクル事業準備室
リサイクル事業準備課

島田 真紀子さん

(株)ブリヂストン
リサイクル事業準備室
リサイクル事業準備課
主幹

友森 康彰さん

(株)ブリヂストン
リサイクル事業準備室
リサイクル事業準備課

山下 大祐さん

改めて“EVERTIRE INITIATIVE”の概要と、皆さんの取り組みについて教えてください。

友森 タイヤを「創って売る」「使う」、原材料に「戻す」という、ブリヂストンのサステナビリティビジネスモデルの確立に向け、タイヤの水平リサイクル実現を目指すプロジェクトが“EVERTIRE INITIATIVE”です。「タイヤがタイヤに生まれ変わる」こと、これがずっと続いていくように“EVER（いつまでも）”という言葉が入っています。

島田 私たちの部署は、共創パートナーとの連携における旗振り役を担っています。現在は、ENEOS様や東海カーボン様とそれぞれのプロジェクトを推進していますが、私は東海カーボン様との共創において、プロジェクトへの参画に至るまでのプロセスを担いました。今後は、ブリヂストンのリサイクル事業の全体像を考えながら、事業という観点での利益やメリットも見据えて共創活動を推進していきます。

山下 私は「訴求・PR」を担当しています。関連部署と協力し、社内外への情報発信や、各種イベントや勉強会の開催などを通じて、このプロジェクトの周知や理解の促進に取り組んでいます。タイヤをタイヤに生まれ変わらせることは、まだどの企業も実現していません。そのため、ブリヂストンの社内だけでなく、社外のステークホルダーにも活動の意義を理解していただく必要があります。世界的には今後、人口増加によってタイヤの需要が伸びることが予想されており、それに伴って石油由来の原材料需要も高まると見込まれます。一方で、脱炭素・脱化石燃料への転換の流れが進む現代社会では、タイヤの原材料においても再生可能資源へのシフトが求められています。使用済タイヤからタイヤの原材料をつくり出すことは、持続可能な原材料調達という観点でも大きな意味があることを訴求

していきたいです。

友森 私は「タイヤ回収」のテーマに取り組んでいます。具体的には、リサイクルに用いるタイヤチップの物量を確保すべく、チップ状に処理する業者様などとの連携・調整を担当しています。現在、使用済タイヤはチップ状になった後、サーマルリカバリー（燃料利用）されることが多いのですが、活用先が限られているのも事実です。このプロジェクトを通じて、タイヤが原材料として生まれ変わるのであれば、処理業者様にとっても活用先が増えるので、歓迎する声は多いですね。

このプロジェクトの難しい点やこれからのハードルについて教えてください。

山下 「タイヤから生まれ変わったタイヤ」がまだ実現していないなかで、この活動をどのように訴求していくか。ブリヂストンが目指す将来の姿から逆算して、「今、何を訴求・PRすべきか」を考えなければならぬ難しさを感じています。

島田 そもそもタイヤには、タイヤとしての性能を発揮するためにさまざまな素材や薬品が使われており、これらを分離してリサイクルすること自体がとても困難なことです。そのため、使用済タイヤを原材料に戻すには、多くのプロセスが必要です。どうしてもその分のコストが商品の価格に反映されることとなりますが、事業面の活動においてはこの取り組みの価値をお客様に正しく伝え、ご理解いただくことも大切だと思います。

友森 ENEOS様、そして東海カーボン様と進めている2つのプロジェクトは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）に採択された実証事業の研究開発テーマとして、国から助成金を頂いて取り組んでいるものです。それぞれのプロジェクトで異なりますが、いずれも数年後に迎える採択期間までに、目標とするレベルを

達成し、「全てのバリューチェーンで実証」できている必要があります。今は目指すべき姿に向け、NEDOと合意した達成目標をクリアできていますが、未来の社会情勢や規制の状況などは不透明です。引き続きアンテナを高く張り、取り組みを続けていく必要があります。

ブリヂストンの皆さんへのメッセージをお願いします。

島田 リサイクル活動は社内外のさまざまな方からのご協力がなくては進められません。今も多くの関連部署や共創パートナーと一緒に取り組んでいますが、このArrowの記事を読んでご理解くださった方には、ぜひリサイクルの視点も加えて業務を推進していただきたいです。また、「自分にも何かできることがあるかも?」と思った方は、ぜひ、手を挙げてアイデアをください。ご連絡をお待ちしています!

山下 特にお客様との接点となる、販売に携わる皆さんにもこの取り組みを知っていただきたいです。これからの時代はタイヤを買ってくださるお客様に、タイヤの性能や、当社のサービスだけでなく、このような活動の価値もご理解いただき、タイヤの購入につなげていただく必要があります。少しずつでも構いませんので、“EVERTIRE INITIATIVE”の取り組みについて知っていただければと思います。もしも「もっと詳しい話を聞かせて」というご要望がありましたらご一報ください。すぐに説明に伺います!

友森 今後はタイヤの「リサイクルのしやすさ」という視点も重要になってくるはずですが、バリューチェーン全体で取り組まなくてはならないプロジェクトだと考えています。また、この取り組みは“共創”なくして“競争”できない分野です。今はブリヂストンが業界の先陣を切っていますが、ブリヂストンだけが良い思いをすることが目指すゴールではありません。みんなで一緒に未来をつくっていくこと。この想いに共感いただけたらうれしいですね。

タイヤ分解油から高品質な リサイクルオイルの精製を目指して

ブリヂストンにとって、精油に関する豊富な知見やノウハウを持つENEOS株式会社（以下、ENEOS様）は大切な共創パートナーの1社です。「タイヤがタイヤに生まれ変わる」未来へ向けた進捗や、今後の展望についてお話を伺いました。

二次処理技術で新品と遜色ない カーボンブラックを

タイヤの強度を高めるために欠かせないカーボンブラック。この原材料も、使用済タイヤ由来のものを活用することを目指し、ブリヂストンは東海カーボン株式会社（以下、東海カーボン様）との共創を始めています。両社の取り組みがスタートしたきっかけや、これからの意気込みなどについてお話を伺いました。

ブリヂストンが精密熱分解によって使用済タイヤから抽出したタイヤ分解油（以下、分解油）を、ENEOS様がナフサなどのリサイクルオイルへ精製し、さらに合成ゴムの原料となるブタジエンなどの化学品へ変換することを目指しています。現在は、精製したものをタイヤの原材料に使えるようにするため、より高品質なリサイクルオイルの精製を目指し、分解油に含まれる不純物の除去や、精製プロセスの研究を進めています。

両社の共創が始まったきっかけを教えてください。

奥野 “EVERTIRE INITIATIVE”を推進するには、さまざまな共創パートナーとの連携が不可欠と考えていますが、数ある企業の中でもブリヂストンが真っ先にお声がけしたのが、精油業界のリーディングカンパニーであるENEOS様でした。原油精製技術に関する深い知見やノウハウを持っていることに加え、“EVERTIRE INITIATIVE”の社会的意義に共感していただいたことが大きかったですね。

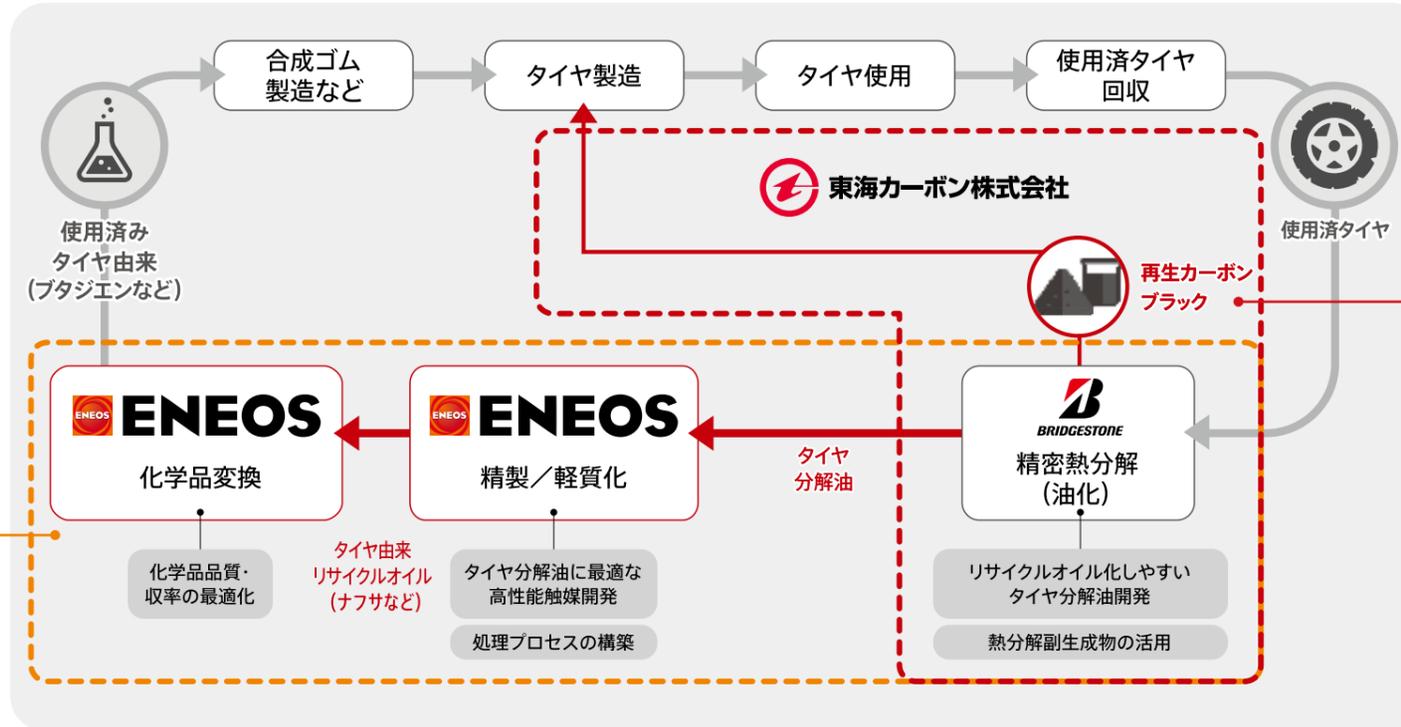
可児 ENEOSとしても、石油精製で培った技術を活かしつつ、タイヤ・ゴム業界をリードするブリヂストン様との共同研究を通じて、弊社のグループ長期ビジョンである「カーボンニュートラル社会の実現」に貢献できるのではないかと考えました。より良い社会を目指したいという両社の思いが合致したことで、共創をスタートすることになりました。

取り組みを進める上で難しい点を教えてください。

奥野 分解油には、タイヤそのものに含まれるさまざまな薬品由来の「不純物」が少なからず混ざってしまいます。元々の薬品自体は、タイヤがタイヤとしての性能を発現するために必要なものなのですが、分解油からリサイクルオイルを精製するために、これらの不純物は取り除かなければいけません。

可児 不純物がリサイクルオイルの品質に直結することはもちろん、オイルを精製する過程でもさまざまな悪影響を与える要因にもなります。これらの不純物を取り除くために、ブリヂストン様が担当する精密熱分解とENEOSが担当する精製、双方のプロセスで試行錯誤を重ねています。

奥野 ENEOS様から分解油の成分に関するフィードバックを頂き、すぐに次の精密熱分解の条件検討に活かすといったPDCAのサイクルを効率的に回すため、ENEOS様とは密にお互いの進捗を共有しています。取り組みが始まった頃は分解油の分析評価方法も、データの見方も全く分からない状態でしたが、可児さんをはじめ、さまざまな方からノウハウを共有いただきました。またお互いの現場を訪問し、相互理解を深める交流も行っています。こうしたコミュニケーション



使用済タイヤを精密熱分解することでタイヤ分解油と共に得られる再生カーボンブラック (recovered Carbon Black、以下、rCB)。これに二次処理を行い、新品並みの性能を持つカーボンブラック (eco Carbon Black、以下、eCBTM) を生成するための技術開発プロジェクトを、東海カーボン様や九州大学様、岡山大学様と共に進めています。
※「eCB」は、東海カーボン様より商標登録出願中です。

ラック使用時と同等の強度が得られません。そのため、不純物を取り除かなければならないのですが、ブリヂストンの精密熱分解プロセスだけでは完全に除去することができません。これを解決する鍵となるのが、東海カーボン様が得意とする「二次処理技術」です。

桐山 元々、カーボンブラックに二次処理を加え、狙った機能を発現した製品は当社でも取り扱ってきました。そういった技術やノウハウを応用して取り組んでいるのですが、eCBの場合、rCBの不純物を取り除きつつ、タイヤ向けのカーボンブラックとしてのさまざまな性能を付与することが求められます。これらの両立は技術的なハードルが非常に高いのです。

戸田 今後も数多くの課題をクリアする必要がありますが、共創パートナーの皆様と一緒にそれぞれの強みを活かして、引き続き粘り強くアプローチを続けていきます。

桐山 eCBの性能発現メカニズムなど、まだ未解明の部分も多いため、九州大学様、岡山大学様と一緒に研究を進めています。2032年度までに年間5,000tのeCBを生産できる実証プラントの稼働を目指していますが、とても息の長い、そして困難な挑戦です。

戸田 プロジェクトの目的やサステナビリティの意識を、幅広いステークホルダーの皆様へ理解・共感いただくことも必要だと考えています。特に日本などの採取可能な資源が乏しい国にとって、資源循環へ向けた取り組みは今後ますます重要になっていくはず。ぜひ多くの方にリサイクルに対する意識をもっと高めていただきたいと思いますし、このプロジェクトがその一助になればと思います。

両社の共創が始まったきっかけを教えてください。

戸田 使用済タイヤの精密熱分解によって得られる生成物をリサイクルすることで再活用できないか、東海カーボン様と議論する機会があり、この取り組みがスタートしました。生成物の1つとしてrCBも得られるのですが、不純物が多く含まれるため、そのままではタイヤの原材料として活用することができません。この根本的な課題を、豊富なノウハウを持つ東海カーボン様の力をお借りして解決できないかと考えました。

桐山 カーボンブラックのもととなる化石燃料は、今後も永続して安定的に採取できる保証はありません。この点からも、rCBからeCBを生成し、再利用することは、当社にとっても大きな意義を持っています。ブリヂストン様と同じく「必ず実現させなければいけない」という思いを共有できたことで、プロジェクトがスタートしました。

rCBをeCBとして生成する上で難しい点を教えてください。

戸田 まず前提として、使用済タイヤの精密熱分解から得られるrCBにはタイヤ由来の不純物が含まれています。こうした不純物を含んだままでは、タイヤの原材料に使用した際、新品のカーボンブ

の積み重ねが、今の信頼関係につながり、プロジェクトを進めることができていると思います。

可児 これからもさまざまな課題と向き合うことになると思いますが、両社の強みを共有し合うことで、それらを1つずつ解決し、将来的には精製したリサイクルオイル由来の原材料を用いたタイヤが生まれると信じています。Arrowを読んでいただいた皆様にも、この取り組みに興味を持っていただきたいと思ひますし、応援していただけたらうれしいですね。



ENEOS (株)
中央技術研究所
サステナブル技術研究所
サステナブル素材グループ
上級研究員
可児 正也さん



(株)ブリヂストン
探索事業開発部門
リサイクル技術開発課
奥野 明さん



東海カーボン (株)
知多研究所
主務研究員
桐山 大志さん



(株)ブリヂストン
サステナブル技術戦略・研究部
リサイクル技術・材料研究課
戸田 匠さん

タイヤの精密熱分解は新たなステージへ

東京都小平市にあるBridgestone Innovation Park内の実証機（以下、実証機）にて技術開発を行ってきた「使用済タイヤの精密熱分解」が新たなステップへと歩み始めます。2027年中にパイロット実証プラント（以下、実証プラント）の稼働開始決定に至るまでに、どのような技術開発が進められてきたのか関係者の皆さんにお話を伺いました。



(株)ブリヂストン
リサイクル事業開発推進部
リサイクル実証準備課長
古川 和也さん

(株)ブリヂストン
化工品生産エンジニアリング部
量産設備設計課
新井 純一さん

(株)ブリヂストン
探索事業開発部門
リサイクル技術開発課
高岩 翼さん

(株)ブリヂストン
探索事業開発部門
リサイクル技術開発課
石垣 知徳さん

2023年から継続してきた実証機での技術開発を経て、岐阜県にある関工場の敷地内に実証プラントを建設することが発表されました。これら一連の取り組みにおける皆さんの役割について教えてください。

古川 私は本プロジェクトが発足した2021年からこの取り組みに関わっていますが、現在は2027年に予定している実証プラントの稼働に向け、プラント建設や実証活動に向けた社内外の体制構築を主に担当しています。今回の建設決定に当たっては数多くの課題がありましたが、1つずつそれらをクリアしてきました。正式にプラント建設が発表され、改めて身が引き締まる思いです。

石垣 私は小平にある実証機を使ってタイヤ精密熱分解の技術開発を行っています。実証機での試験を通して、熱分解のメカニズムの把握や、分解油やカーボンブラックの収率、組成などの改善に努めてきました。実証プラントの建設も、実証機での技術開発が順調に進んでいることを受けて決定したのですが、正式に建設することが決まった時は、喜びと同時に、よりスケールアップした取り組みができるとワクワクしたのを覚えています。

高岩 私も石垣さんと同じチームで精密熱分解の技術開発を担当しています。実証機を決められた条件で稼働させ、何か異常が起きた際に対応をとっています。これまでは別の商材の製造に関わる仕事をしていたので、技術開発に携わることは初めての経験。右も左

も分からない状態からの挑戦でしたが、チームで丸となり、着実に成果を残すことができ、達成感を感じながら仕事に取り組んでいます。

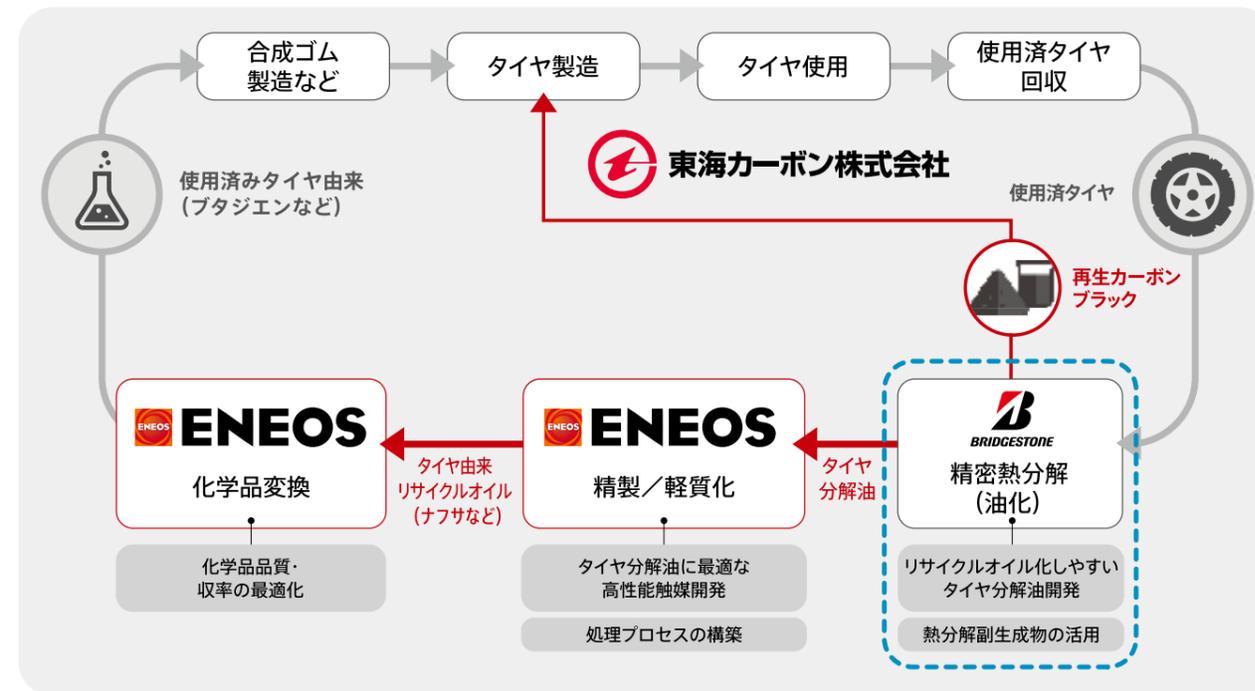
新井 私は実証プラントで稼働予定の設備の選定や設計、導入を担当しています。皆さんがこれまで積み重ねてきた努力が実証プラントで花開くよう、安全を第一に考えながらも、最適な環境づくりを目指しています。

小平の実証機で取り組んできた精密熱分解の技術開発において、苦労した点を教えてください。

古川 精密熱分解に関する知見自体が、化学メーカーではないブリヂストンにはありませんでした。初めは、機械の図面をどう読めばいいかも分からなかったのですが、そうしたところも含め、メンバー



関工場敷地内に建設予定の実証プラントの外観（イメージ）



は調査や学習を重ねて、今日まで必死に技術開発を進めてきました。豊富な知見を有するENEOS様から、ノウハウを共有いただきながら進めている他、専門的な知識を持つキャリア入社メンバーにもプロジェクトに加わってもらうなど、社内外の知見を活用しながら、一つひとつの課題に取り組んでいます。

石垣 分解油やカーボンブラックが初めて生成できたときは非常に感慨深いものがありました。一方で、それらの生成物は見た目からだけでは性能や物性を判断できません。分解油についてはENEOS様に性能を評価いただき、求めている基準に達しているかなどを確認します。より良い生成物を抽出するために、さまざまな分解条件を検討してきました。

高岩 別の商材を製造担当していたときは、モノを見ながら製造できたのですが、精密熱分解では、抽出した分解油が配管の中を流れ、生成物が出てくるまでモノを見ることができません。そのため、製造途中に不具合が起きても現物を確認できず、当初はハラハラしていました。配管の中で何が起きているか、センサーを通じて得られた温度や圧力といった情報から推測し、実験していたことを覚えています。手探りでの検討も多かったのですが、分解油の収率も徐々に上がり、熱分解のメカニズムも少しずつ分かってきました。努力が成果に結び付いていく瞬間はとてもやりがいを感じますね。

新井 設備の面でも、実証プラントに導入する予定のものほとんどが、ブリヂストンにはない、化学メーカーの工場にあるようなものば

かりです。これまでとは全く異なる新たなチャレンジになります。設備メーカーとの仕様や図面などのすり合わせを通じて、新たな知識や気づきを得る機会も多く、自分自身も成長できていると実感します。

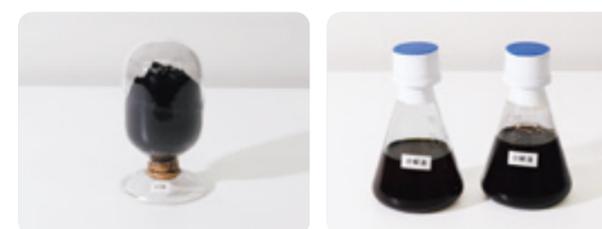
今後の見通しについて教えてください。

新井 小平の実証機もかなり大きい設備ではありますが、実証プラントはその何百倍もの量の使用済タイヤを処理できる規模の施設です。ここでの運用がスタートすれば、間違いなく社会実装や商用化に一歩近づくこととなります。

高岩 小平では実証機の運転条件の検討を通じて、分解油の収率アップや組成の改善、熱分解のメカニズム解明などの基盤技術の開発を中心に取り組んできました。実証プラントではこのような技術開発に加え、より社会実装を見据えて取り組んでいく必要があります。

石垣 量産化を想定した技術開発だけでなく、タイヤチップの輸送や受け入れ、分解油やカーボンブラックの出荷といったロジスティクス面での検討、量産技術の確立まで、取り組むべきテーマは幅広くありますね。

古川 まだまだ乗り越えなければならない課題はたくさんあります。それらを解決していくためには、私たち自身が成長していくこと、そして新しい仲間が必要で、チャレンジングな分野で挑戦してみたい方、ケミカルリサイクルに興味をお持ちの方はぜひ手を挙げてほしいですね。



回収されたカーボンブラック（左）と分解油（右）

プレゼントクイズ

右のQRコードから特集記事に関するクイズ（全5問）に挑戦してみませんか？
全ての問題に正解した方の中から、抽選で20名様にデジタルギフトをプレゼントします！



ブリヂストン 創業者・創業の地 プロジェクト

ブリヂストンは2031年に100周年を迎えます。100周年に向け、創業者の足跡、創業の地・久留米を辿ることで、創業者石橋 正二郎の創業に掛けた想いなどブリヂストンの原点に回帰し、ブリヂストンDNAとは何かを再確認する「ブリヂストン創業者・創業の地プロジェクト」を進めています。



創業者石橋 正二郎は、20世紀初頭、日本のモータリゼーションを予見し、それを支えるためタイヤの国産化を決断。1930年には第1号の「ブリヂストンタイヤ」が誕生し、1931年3月1日に「ブリヂストンタイヤ株式会社」が設立され、今のブリヂストンへとつながります。

1960年代には、経営の近代化と品質管理活動を推進。「デミング・プラン」と称して全社的な企業体質改善に取り組み、1968年に卓越した総合的品質管理を実施している企業に与えられる「デミング賞実施賞」を業界で初めて受賞しました。同年、社是として制定した「最高の品質で社会に貢献」は使命として現在も引き継がれています。

創業者は、久留米の文化を振興させたいと考え、「石橋文化センター」を寄贈しました。「世の人々の楽しみと幸福の為に」という創業者の寄贈理念は正門に掲げられています。また、事業家は「公共の事業に尽くすことを忘れてはならない」という考えのもと、市内の小中学校にプールを寄贈。附設中学・高校を含む現・久留米大学や、東京でも数々の教育機関への助成・寄付などを行い、地域社会の発展に大きく貢献しました。

私自身も、創業の地久留米で育ち、小中学校は創業者が寄付したプールで泳ぎ、創業者が寄付した高校で学びました。石橋文化センターにある石橋美術館（現・久留米市美術館）では絵画を、石橋文化ホールではジャズに触れ、私の人生の楽しみとなっています。

こうして創業から培われてきたブリヂストンDNA、企業理念は、どんな時代においてもブレることのないブリヂストンの原点です。激動の時代だからこそ、原点に立ち返り再確認することが重要です。



ブリヂストン久留米工場

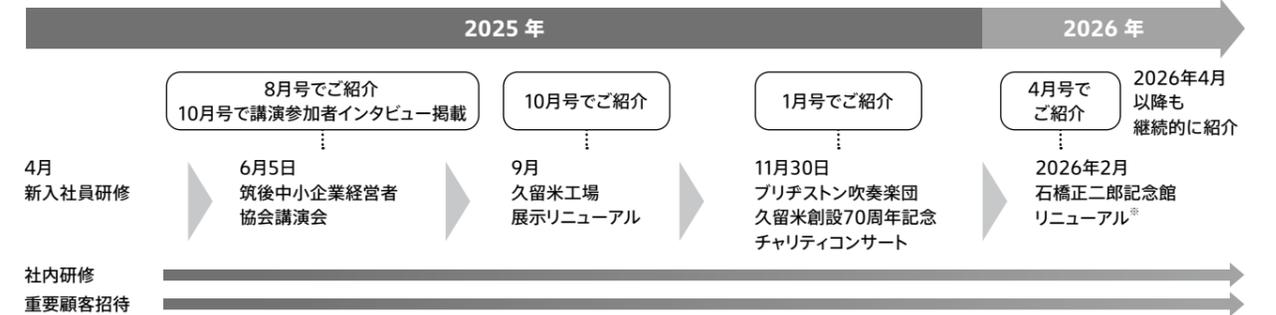
「ブリヂストン創業者・創業の地プロジェクト」は、創業者石橋 正二郎・ブリヂストンと創業の地久留米の“つながり”を再確認し、ルーツである久留米工場がブリヂストンDNAの原点であることを知ることで、ブリヂストンをより深く理解いただくことを目的としています。

この「ブリヂストン創業者・創業の地プロジェクト」を通じ

て、従業員の皆さんには誇りを感じていただき、国内外の重要なお客様には共に価値を創造していくパートナーとしてブリヂストンDNAに共感いただくきっかけとしています。

2025年8月号のArrowから、連載で「ブリヂストン創業者・創業の地プロジェクト」をご紹介します。9月には久留米工場展示リニューアルを予定しており、10月号でご紹介します。

主なArrowでの「ブリヂストン創業者・創業の地プロジェクト」ご紹介スケジュール



※石橋正二郎記念館リニューアルの推進は公益財団法人 久留米文化振興会が進めています

筑後中小企業経営者協会 Global CEO講演

地域の皆様とのつながりを深める取り組みとして、6月9日に、Global CEOの石橋さんが、筑後中小企業経営者協会(以下、中経協)主催の講演会に登壇しました。この講演会は、中経協会長 山下 剛司氏より、「筑後地方の産業を勇気づけ、地域の経営者の方々に元気づけてほしい」とGlobal CEOの石橋さんに依頼があり実現したものです。当日は、中経協会員である経営者の方々をはじめ日頃ブリヂストンを支えていただいているブリヂストン安全衛生協力会、ブリヂストン輸送協力会の皆様や久留米大学、創業者の母校である久留米商業高校の関係者など、久留米社会を代表する300名以上が参加されました。参加者からは、「グローバルに成長を続けているブリヂストンは

久留米の誇りであり、尊敬しています」「私たちも地域のために貢献できる企業になろうと強く決意しました」「企業理念『最高の品質で社会に貢献』という揺るがない精神で幾度も逆境を乗り越え、今のブリヂストンの地位を確立してきた姿に刺激されました」といった、温かいメッセージを多数頂きました。

ブリヂストンに対する地域の皆様からの期待を直接感じ、使命である「最高の品質で社会に貢献」を胸に、2031年に迎えるブリヂストン創業100周年に向けて久留米市の皆様と共に歩みたいという想いを再認識させていただく機会となり、Global CEOの石橋さんも参加された皆様に感謝の意をお伝えしました。



ビジネスの起点は 現場にあり



こんにちは
アローです!

Hello!

今回はブリヂストンタイヤサービス東日本(株)・西日本(株) 代表取締役社長の仲村さんにお話を伺います。
「こんにちは仲村さん、今日はよろしくお願いします!」

ブリヂストンタイヤソリューションジャパン(株)
専務執行役員
兼 ブリヂストンタイヤサービス東日本(株)・西日本(株) 代表取締役社長

なかむら かつのり 仲村 克則さん

広島県出身。2002年に(株)ブリヂストンにキャリア入社し、消費財営業、生産財商品企画を経験。2011年からはブリヂストンタイヤジャパン(株)(現 ブリヂストンタイヤソリューションジャパン(株))へ、生産財ブロック統括、生産財マーケティング本部長、常務執行役員を経て、2022年にブリヂストンタイヤサービス東日本(株)、ブリヂストンタイヤサービス西日本(株) 代表取締役社長に就任。2024年1月から現職。

Information

趣味・特技

スポーツ観戦(特に野球)

広島出身で家族の影響もあり、地元広島の野球チームを応援しています。球場で見る野球の雰囲気が好きで子どもとよく観に行っていました。それが家族との共通の趣味となり、今でも休日には、最寄りの球場まで観戦に行きます。

リフレッシュ方法

オンオフの切り替えを徹底

私の場合、良い仕事はオンとオフの切り替えをすることで実現できると考えており、若い時から実践してきました。「業務時間中は仕事に全力を尽くす」「業務時間外や休日は仕事を一切忘れ、プライベートを充実させる」ことで、頭が切り替わりリフレッシュできると一緒に働くメンバーに話しています。

愛用しているブリヂストン商品

自転車

子どもの頃から「ブリヂストン=自転車」というイメージがあり、意識はしていませんでしたが自然とブリヂストンの自転車を使っていました。入社後は、家族全員で1台ずつ保有するヘビーユーザーになり、耐久性・実用性・機能性など品質の高さを実感しています。家族の成長に寄り添い続けてきたアイテムです。

2. ご自身の人生における ターニングポイントを教えてください。

基幹職に昇進したタイミングでお客様に近い販売現場でのマネジメントを経験させていただいたことです。ブリヂストン入社後は、商品企画やマーケティングなどを担当してきましたが、企画した商品の魅力や価値が販売現場を通じてお客様にどう伝わり、ビジネスにどう影響しているのかが分からず、不安を感じていました。もっと現場に近いところでビジネスの本質を学ぶ必要があると考えていたなかで、販売現場でマネジメントを経験する機会を頂き、さまざまなお客様や販売現場の声に接することで、従来から感じていた不安を払拭するきっかけとなりました。



2. 仕事をする上で、 意識していることを教えてください。

「現状に満足しない」「今よりも必ず良くする」、そのために「何事にも全力で結果を出す」ことにこだわっています。これまでを振り返ると、幸いにも成長が期待できるチャンスがいくつもあり、挑戦することで道が開けてきました。社長の立場となった今は、従業員の皆さんに「たとえ小さなことでも業務に課題感を持ちその解決に向け全力でチャレンジしてほしい」「そのなかで成功や失敗を繰り返し、成長を実感できる機会をつくってほしい」と話しています。

2. 経営において、 大切にしていることを教えてください。

1つ目は、「お客様・販売現場」を起点に情報を正しく理解し、環境変化に合わせてスピーディーかつ適切な判断をすることです。現場で直接お客様から聞く声の中には、ビジネスのヒントや答えが必ずあります。今の立場になって4年目になりますが、毎月店舗とお客様の元に足を運び、経営者含め多くのお客様と直接お話しすることで、正しい判断力を身に付けられるよう意識しています。

2つ目は、経営の立場として、目的とゴール、そしてその方向性を従業員に分かりやすく明示し、それを短期間でブラさないことです。全員が同じ方向に向かって取り組むことが重要です。そのために、研修・方針説明会・イントラネットなどを通じ、従業員の皆さんに会社としての方針・成果・課題を定期的に共有する場をつくっています。



2. 今後のブリヂストンタイヤサービス 東日本(株)・西日本(株)の 展望を教えてください。

私たちが扱う生産財タイヤの需要を左右する輸送業界は、従来から頭在化していた「安全運行」「経費削減」「環境対応」の3つの課題に加え、「労務環境の改善」や「ビジネスの効率化」など「物



流の2024年問題」に起因する新たな課題に直面し、今までにないスピードで変化を遂げています。この変化をビジネスチャンスと捉え、当社の強みである「ソリューション提案力」「メンテナンス力」「ネットワーク力」それぞれの品質を高め、最適に組み合わせることで、顧客価値を最大化し、成熟市場の中で確実に成長していきます。

2. 最後に従業員の皆さんへの メッセージをお願いします。

これまで全員・全力で取り組んできたソリューション提案は、多くのお客様から好評を頂いています。その結果、2024年は、需要が伸び悩みなか、過去最高レベルの売上収益を実現できました。また、お客様を訪問した際には「安全かつ時間通りに物を運ぶことができるのはブリヂストンさんのおかげです」と感謝の言葉を頂くことが増えました。これは、販売現場の皆さんが日頃からお客様に誠実に向き合っているからこそ。今後も、従業員一人ひとりが、今の真摯な取り組み姿勢を忘れず、日本の物流業界の足元を支えていることに誇りを持ち続けましょう。そして皆さんが働きやすい、やりがいの持てる、もっと活気の溢れる会社にしていきましょう。



時代に合わせた
挑戦を続ける!

地道な積み重ねが
信頼につながるの
ですね

師匠と弟子

職長代行になり、
毎日新しいことの連続。
人との接し方など
改めて気づくことがたくさんある



権藤さんから学んだ「現場のいろは」を
今は僕が後輩に教える立場に



出会いから22年。 立場が変わっても変わらない想い

(株)ブリヂストン 久留米工場・鳥栖工場

今回の「師匠と弟子」では、約20年前に久留米工場での出会い、相手として二人三脚で歩んできた権藤さんと高田さんにご登場いただきます。2人は、高田さんが2004年に入社してから鳥栖工場に異動する2011年まで、久留米工場の押出工程でペアを組むことが多かったそうです。現在は職長代行と生産リーダーとして、互いにそれぞれの工場チームを引っ張る存在に。当時を振り返っていただきながら、久々の再会を楽しむ様子をお届けします！

高田 権藤さん、「令和6年度 久留米商工会議所 ゴム製造部会」表彰での「エフォート賞」受賞、おめでとうございます！権藤さんの活躍を知ることができてうれしいです！
権藤 ありがとう。漠然と「すごい賞に推薦されたんだ」と思ったんだけど、目立つのがあまり得意じゃないから。恥ずかしかったし、表彰式はすごく緊張して……。今回の取材もすごく緊張しているんだけど、気心知れた高田君に来てもらえてうれしいよ。
高田 権藤さんはクールで寡黙な方ですか

らね。緊張している姿が想像できます(笑)。最後に仕事で一緒にしてから10年以上経ちましたが、弟子として呼んでもらえて光栄です！権藤さんは私の入社前から押出工程一筋、誰もが認めるスペシャリストです。権藤 高田君が鳥栖工場に異動してから10年以上も経つのか。入社してから鳥栖工場に異動するまで、久留米工場の押出工程で7年間、ペアを組むことが多かったね。
高田 入社当初は分からないことばかりで目の前の仕事に必死でした。でも分からな

いことは、すぐに権藤さんに聞くようにしていましたし、その都度丁寧に教えていただきました。一見クールで話しかけにくい雰囲気ですが、面倒見の良い先輩で、実はすごく優しく、何かあればみんなが権藤さんを頼っていました。そして、個人的にはよく飲みに行くなど可愛がっていただきました。
権藤 こんな性格だから、話しかけてくれる人も多くなくて、入社当初から積極的に話しかけてくれてうれしかったのをよく覚えて

考えが若い！	相手の第一印象	話かけにくい先輩・背が高い
ありません	相手に直してほしいところ	特にありません
考え方が柔軟で、思ったことははっきりと意見を言うところ	相手の尊敬するところ	冷静沈着なところ
ロバ（のんびりしている）	相手を動物に例えると	ライオン（寡黙だがリーダーシップがあり、みんなから頼られている存在）
いつかまた一緒に仕事ができるといいな……	相手に望むこと	工場は違っても連休時など飲みで連れて行ってほしいです！

(株)ブリヂストン
久留米工場 製造第1課 押出・才断・ビード係
職長代行
権藤 賢常さん (1999年入社)

師匠 × 弟子

(株)ブリヂストン
鳥栖工場 製造第2課 第1成型係
生産リーダー
高田 大輔さん (2004年入社)

いるよ。当時は機械も古くてトラブルも頻繁にあったけど、ペアとして何度も乗り切ったね。高田君はコミュニケーション能力が高く、分からないことは積極的に質問していたし、報告・連絡・相談をしっかりとっていた。当時は「技術は見て盗む」ことが多かったからこそ、どんどん質問して、技術を自分のものにしていく高田君が頼もしかったよ。でも当時はチャラい見た目だったから、真面目な性格とのギャップも感じていたかな(笑)。

高田 当時はそんな見た目だったから、性格もヤンチャだと思われていたんだろうな(笑)。なので2011年に鳥栖工場に異動した際も、周りから心配されているんだろうなと感じていました。鳥栖工場の押出工程に異動して、その後半年ですぐに現在の成型工程に異動することになって。知っている仲間もない環境の中で経験のない業務を担当することになり、本当に苦労しました。

権藤 押出工程と成型工程はやることも全く違うから大変だよ。でも、分からないことでも積極的に周りに聞いて、自分のものにしていく。そんな高田君だからこそ、大変な時期を乗り越えられたんだろうね。その後たった3年で班のリーダーになったことも人づてに聞いていたよ。まさか3年でリーダーになるとは思っていなかったから、自分のことのようにうれしかったんだ。

高田 あまり相手との関係性などを気にしたりせず、何でも質問する性格なので、周りのメンバーからどんどん吸収して、とにかく

がむしゃらに頑張っていました。今では、成型工程の生産リーダーを務めています。当時権藤さんから頂いた、冷静な判断に基づいた的確な指示や、何でも相談に乗ってくれる面倒見の良さなどを参考に、後輩の育成に努めています。今の私があるのは、入社時に権藤さんから教わったおかげです。権藤さんは職長代行になられたんですね。

権藤 6年前に才断・ビード係が押出係と合併したり、今年の4月に職長代行になったり、ここ最近で大きな変化があったんだ。全く経験のなかった分野で、周りの皆さんに教えていただきながら何とかやっているけど、職長代行は特に大変で、毎日新しいことの連続。班のまとめ方や人との接し方など、環境の変化があったからこそ、改めて気づくことがたくさんあるね。でも、一緒に仕事をしていく頃「1本でも多く良いタイヤを作っていきたい」という想いは決して変わらないし、後輩にはこの想いを伝えていくことを常に意識しているよ。

高田 そうですね。お互い環境や立場が変わっても、その想いだけは変わることはないですね。そして権藤さんから学んだ、社会人としてのマナーや安全意識などの「現場のいろは」も、後輩に教えていきます。私も権藤さんのような師匠になれるよう、頑張っていきたいです。

権藤 お互い立場も変わってしまったけど、また一緒に仕事する日が来るといいね。



当時の押出工程で作業していた頃を懐かしむ2人。「いつかまた一緒に仕事ができるといいね」と権藤さん



押出工程でペアの関係として、7年間久留米工場と一緒に働いた権藤さんと高田さん。「若手の中でも一番仕事ができる先輩で、ペアを組んだときは常にやりやすかった」と高田さんが話すと、権藤さんは少し照れていた



「22年前なので、今は想像できないと思いますが、高田君は相当派手だったんですよ」と明かす権藤さん。「見た目は変わったけど、当時から話し方も考え方も人との接し方も変わらない。立派な生産リーダーになって感慨深いよ」



United Arab Emirates

世界のブリヂストンの チームメイト

グローバルで活躍する
ブリヂストンのチームメイトにフォーカス！
海外だからこそのやりがいや難しさ、
その国ならではの最新情報などを
お届けします！

Bridgestone Middle East & Africa FZE (BSMEA)

ブリヂストン ミドルイースト アンド アフリカ エフゼットイー

BSMEAはドバイに拠点を置き、中近東・アフリカ諸国（南部アフリカを除く）およびCIS*地域を含めた60を超える国々を対象に、乗用車用、トラック・バス用、鉱山・建設車両用タイヤの販売、およびソリューション展開を行っています。対象地域の多くは代理店を通じた商流であるため、社外パートナーと連携しながら日々業務を行うのが、この地域の特徴の1つです。

*Commonwealth of Independent States（独立国家共同体）の略で、ソビエト社会主義共和国連邦の崩壊後、旧ソ連諸国により結成されている緩やかな国家連合体

Country information



国名：アラブ首長国連邦
言語：アラビア語（公用語）、英語
首都：アブダビ
人口：約1,006万人
（出典：2023年国際通貨基金）



From teammates

地域のニーズに応じた商品をチームでつくり上げます



BSMEA Consumer Product
村上 なつさん

乗用車用タイヤの商品企画・管理を担当しています。現行商品の販売データや市場からのフィードバックを基に次期商品の企画につなげ、関連部署と連携しながら商品を開発・上市し、その後のフォローまで、商品のライフサイクル全体に関わることができるのが魅力です。MEAは販売対象国が多く、それぞれに異なるニーズがあるため、取り扱う商品が多岐にわたります。国ごとに最適な商品ラインアップを管理・調整していく必要があるのが、この地域の特徴だと思います。

🗨️ 海外ならではのやりがいや、大変なことはありますか？

ドバイは人口の約9割を外国籍の方が占め、さまざまな国籍・バックグラウンドを持つ方々と一緒に仕事をしています。新たな出会いをうれしく感じる一方で、多様な価値観やコミュニケーションの違いに戸惑ったり、難しさを感じたりすることもありました。自分の考えをしっかりと伝えながらも、相手と建設的な議論ができるよう日々模索しています。

🗨️ 今後の目標を教えてください！

他社の低価格帯のタイヤブランドがMEA市場で存在感を増すなかでも、高い認知度と信頼感から、ブリヂストンを選んでくださるお客様も多いと感じています。さらに多くのお客様にブリヂストンのタイヤを選んでいただくためには、まずは商品そのものが重要だと認識していますので、今後もグローバルのメンバーと連携しながら、お客様のニーズに沿った商品づくりに積極的に関わってまいります。

国・地域の名産品・名物スポット

私のお勧めは、「The Palm Tower」の50階にあるインフィニティプール「AURA SKYPOOL」です。ドバイの景色を360度見渡すことができ、プールを楽しんだり、ビーチベッドでくつろいだりしながら絶景を満喫できる、ドバイらしさ満点のスポットです。時間帯によって変化する景色もすてきで、ドバイにお越しの際はぜひ訪れていただきたい場所の1つです。



カルチャーショックを受けたエピソード

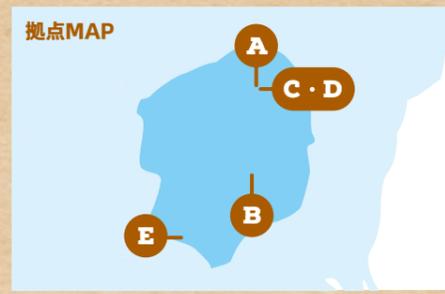
ドバイではデリバリー文化が非常に発達しており、ペットボトル1本から日用品までアプリで注文・配達してもらうことが可能です。デリバリー対応しているレストランも多く、部屋から一歩も出ずに生活ができる程の便利さに驚きました。特に夏場は、40度を超える外の暑さと建物内の強すぎる冷房との温度差が苦しいため、つい頼りたくなってしまいますが、家にこもりすぎないように、意識的に外出することを心掛けています。





今回は、「律義だ」「正義感が強い」「落ち着いている」「食事はゆっくり楽しむ*」が県民の特徴といわれる栃木県を紹介!事業所独自の特徴も1つ加えてレーダーチャートにし、どのくらい当てはまるかを回答いただきました!

※栃木県は「1日当たりの食事時間」全国同率5位です(出典:総務省統計局「令和3年 社会生活基本調査結果」)
 ※県民性に当てはまることを推奨するものではありません。気軽にお楽しみください(参考資料:祖父江孝男「県民性の人間学」ちくま文庫)



A (株)ブリヂストン
 ブリヂストンブルーピンググラウンド(BSPG)

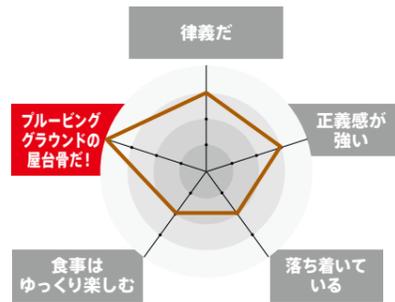
住 所 栃木県那須塩原市笹沼370
 従業員数 72人

紹介者 実車試験部 主査の北原 一弥さん(中列左端)
事業・業務内容 BSPGでは、開発中のタイヤを実際に車に装着し試験・評価をする実車試験を行っています。私たちの部署はコースの運営管理業務を担当している、縁の下の力持ちといった存在です!
今後の目標 安心・安全、快適につながる製品開発への貢献を常に意識していきます。お取引先様やジャーナリスト向け試乗会などで、製品の性能を体感いただき、ブリヂストンが与える価値をお客様に共感いただけるよう、コミュニケーションの場を提供することにコミットしていきます。



安心・安全を支える、
 縁の下の力持ち

実車試験部の皆さん



正義感が強い
 三浦さん(右端)は過去自衛隊に所属された経歴もあってか、規律やルールに対しても厳格です。担当されている計測器の定期検査に関する業務でも、期限切れが起きることがなく非常に助かっています。

ブルーピンググラウンドの屋台骨だ!
 私たちの部署は国内のブルーピンググラウンドの管理全般を担当しています。BSPGに所属する総勢70人以上のメンバー、東京ドーム16個分以上の敷地、200台超の試験車両に加え、特殊な試験設備や路面、安全・衛生など、あらゆるものを13人で管理しています。また、北海道のブルーピンググラウンドでは、毎年12月下旬から2月中旬の期間、BSPGのメンバーが交代で滞在し、「BLIZZAK」をはじめとする冬用のスタッドレスタイヤのテストを行っています。それぞれが担当分野のエキスパートとして、安全かつスムーズに実車試験が行えるように日々支えています!

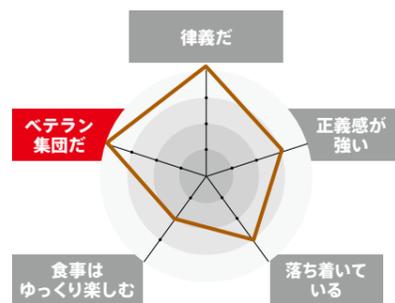
B ブリヂストン化工品ジャパン(株)
 宇都宮営業課

住 所 栃木県宇都宮市東宿郷3-1-7
 メットライフ宇都宮ビル4階
 従業員数 6人

紹介者 産業ソリューション関東営業3部長 兼 宇都宮営業課長の市川 明仁さん(前列右)
事業・業務内容 産業資材・建築資材の販売
今後の目標 主力商品の油圧ホース、プッシュマスターの拡売を図るとともに、「Bridgestone E8 Commitment」をお客様にも共感していただき、地域シェアNo.1を目指しています。



目指せ地域シェアNo.1!



律義だ
 樹脂配管を担当している課長の引地さん(後列右から2番目)は、何事にもきちんとした対応をしてくれるので、お客様からの信頼が厚く安心感が強いです。

ベテラン集団だ
 営業は全員管理職でベテランぞろい。効率よく業務を行っています。交渉力はものすごいのですが、体力がなくて夜が弱いので早寝早起きで健康的です。

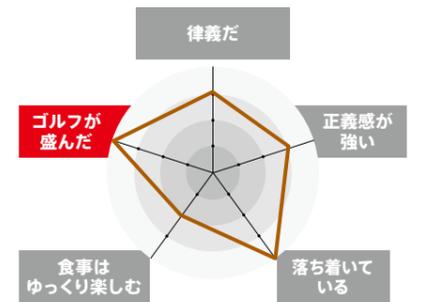
C プリチストンプラントエンジニアリング(株)
 栃木事務所

住 所 栃木県那須塩原市上中野10
 従業員数 39人

紹介者 栃木事務所長の谷脇 宏之さん(中列右端)
事業・業務内容 タイヤ生産設備の保守・据え付け・整備、および荷役運搬車両の点検・整備
今後の目標 「一人ひとりがルールを守り正しく行動、安全・安心で信頼確保、チーム一丸の改善で『お客様価値を最大化』」をスローガンに、明るく楽しい職場を目指します。



正確・誠実な作業でお客様の信頼を獲得!



律義だ
 モールド整備作業主任の星さん(前列左から5番目)の机は3Sが徹底され、常に完璧に整頓されています。業務の効率を高めるだけでなく、職場全体の士気向上にもつながっています。



食事はゆっくり楽しむ
 昼食はお弁当や社員食堂を利用する人が多いですが、みんな疲れているのか、昼食後はすぐに昼寝タイムに入ります。楽しむ要素ゼロ!

ゴルフが盛んだ
 ゴルフ好きが多く、定期的にコンペを開催しています。鍋木さん(前列左から4番目)はいつも幹事をするとき、季節感の味わる良いゴルフ場を選んでくれます。

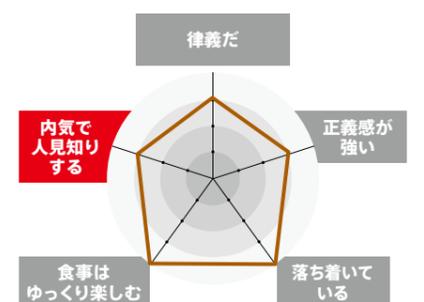
D プリチストンチャレンジ(株)
 那須分室

住 所 栃木県那須塩原市上中野10
 従業員数 19人

紹介者 那須分室長の平山 敏美さん(前列右端)
事業・業務内容 那須工場構内各施設の清掃業務、栃木工場・ブルーピンググラウンドの緑化整備業務、メール便集配業務
今後の目標 安全・品質への意識を高め、お客様から笑顔を頂き、信頼を獲得していくことを目指しています。明るく・楽しく・元気に仕事ができ、チームワーク良く、自分たちも笑顔の絶えない職場づくりをしていきます。



笑顔の絶えない那須分室へ!



内気で人見知りする
 今年入社した久留生君(中列左から3番目)、トライアル雇用の土屋君(中列左から2番目)は内気でおとなしかったのですが、最近は仲の良い先輩をイジったりと笑顔が増えてきました。土屋君は筋トレも始めたとか。今後の成長が楽しみです。

E

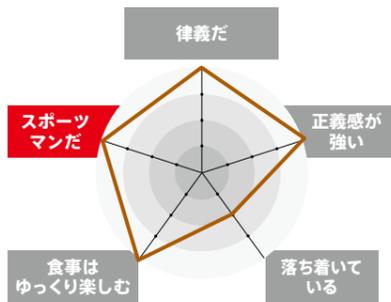
プリチストーンタイヤ栃木販売(株)
佐野営業所

住 所 栃木県佐野市免鳥町字長町175-2
従業員数 11人

紹介者 所長の小松原 悠介さん(前列中央)
事業・業務内容 乗用車用からトラック・バス用、鉱山・建設車両用まで、幅広いタイヤの卸販売をしています。
今後の目標 平均年齢も若いので、「明るく元気」をモットーにチームワーク良く、常に良いレスポンスを心掛けて、お客様から選ばれる営業所を目指しています。やるぞー!!!!!!



明るく元気に
チームワーク良く!



スポーツマンだ

セールスの関口くんは、社会人卓球で栃木県の代表にも選ばれるほどの実力者。50kg以上あるトラック・バス用タイヤを1人で100本積めるほどのパワーも持っている、営業所のエースです。



通信員

プリチストーンタイヤ栃木販売(株) 業務部
鈴木 綾子さん

社内は明るい人が多く、休憩時間はおいしいお店やゴルフの話題などで親睦を深めています。栃木は餃子をはじめ、おいしい食べ物やお勧めのスポットがたくさんあります! ぜひ栃木に来らっせ!(来てください!)



私たちがオススメします!

行ってみて!
&
食べてみて!

グループ従業員の皆さんに、県内のお勧め観光スポット&グルメを教えてください!

戦場ヶ原



写真提供: (公社) 栃木県観光物産協会

ハイキングが楽しめる場所で、新緑の頃、紅葉の頃、どちらもすがすがしくとても爽快です。帰りにレストラン「明治の館」で、人気のチーズケーキ「ニルバーナ」とコーヒーで一息……癒やします……。

from (株)プリチストーン プリチストーンブルーピンググラウンド 北原さん

ライトライン (LRT)



©(一社)宇都宮観光コンベンション協会

宇都宮駅の東側を走る、次世代交通システムです。各種交通との連携の良さや、車いすやベビーカーでも乗り降りしやすいのが特徴で、環境にも優しいです。宇都宮にお越しの際はぜひ乗車してみてください。宇都宮営業課の入っているビルは、宇都宮駅から1つ目の停留所「東宿郷駅」目の前にあります。

from プリチストーン化工品ジャパン(株) 宇都宮営業課 市川さん

佐野らーめん



写真提供: (公社) 栃木県観光物産協会

青竹で打ったちぢれ麺が特徴です。佐野市内には150軒以上の佐野らーめん店があり、日本有数の密度を誇る「ラーメンのまち」となっています。

from プリチストーンタイヤ栃木販売(株) 佐野営業所 小松原さん

きぬがわ高原カントリークラブ



なんとワンちゃんと一緒にプレーができるゴルフ場です。まるで絵画のような素晴らしい雲海を眺めながら、愛犬と一緒にドッグレックコースを攻略! 標高が1,200mと高いので、いつもより飛距離もアップ!?

from プリチストーンブランドエンジニアリング(株) 栃木事務所 谷脇さん

Arrow News Clips

Web版「Arrow」で随時更新しているニュースや、各事業所での取り組みをピックアップしてご紹介します。



他のニュースもチェック!
Web版「Arrow」

(株)プリチストーン 2025.04.18

石破総理大臣から「内閣総理大臣感謝状」を受領 知財の取り組みが産業財産権制度の普及・発展に貢献

4月18日、内閣総理大臣感謝状贈呈式が執り行われ、(株)プリチストーンが令和7年度「産業財産権制度普及発展特別功労企業 内閣総理大臣感謝状」の贈呈を受けました。

この表彰は、令和7年に日本の産業財産権制度制定140周年を迎えることを受けて、本制度の普及・発展に極めて顕著な功労や功績があった企業に対し、内閣総理大臣から感謝状を贈呈するものです。

プリチストーンは、戦略的な知的財産(以下、知財)マネジメントにおいて、産業財産権を中核に、知財を事業へ活用する取り組みが高く評価され、受賞しました。

贈呈式では、内閣総理大臣の石破 茂さんから、(株)プリチストーン 代表執行役 副社長 Global CAO (Chief Administration Officer)・Global CSO (Chief Strategy Officer) の森田 泰博さんに感謝状が贈呈されました。

石破総理大臣からは日本の産業発展に貢献していることに対して感謝の言葉が述べられたと共に、特許庁長官の小野 洋太さんからは

「知財経営は分かりにくい部分が多いので、先行しているプリチストンの事例をリーディングケースとしてご紹介している」とご評価いただきました。



新商品紹介

プリチストーングループの新商品をご紹介します

クロスバイク「TB1」 2025年モデル

発売日: 2025年5月下旬
発売カラー・サイズ: 7色・各色2サイズ

トレンドカラーを採用

クロスバイクデビューに最適な1台としてご好評いただいている「TB1」に、新色4カラーと新グラフィック2種が登場。新色には、さわやかでトレンド感のある印象の「E.Xモダングリーン」、スポーティな印象を強調する「P.Xマジックブルー」、普段使いもしやすい「T.Xランドベージュ」と「T.XHカーキ」が登場し、新たにラインナップに加わります。新グラフィックを施した「E.Xブラック」と「P.Xスノーホワイト」は、通勤・通学の利用シーンに馴染むシックなデザインです。発売以来最も人気のカラー「T.Xマットグレー」は引き続き販売します。



E.Xモダングリーン

ゴルフシューズ

「ZSP-BITER LIGHT (ゼロ・スパイク バイター ライト)」

発売日: 2025年7月18日
発売カラー・サイズ: 3色・24.5cm ~ 28.0cm, 29.0cm

「最終ホールまで軽やかに」、快適なラウンドをサポート

「少しでも軽く、かつしっかり芝にグリップするシューズを履きたい」というゴルファーのニーズに応えた前モデル「ゼロ・スパイク バイター ライト」をさらに進化させたスパイクレスシューズです。新開発の「コンフォートベントインソール」を採用し、クッション性・通気性を向上。履き口周りのクッション材は厚めにし、ペロの部分を足によりフィットする形状としたことで、足全体を柔らかく包み込みます。アウトソールには前モデル同様「ターフバイトポケット」を搭載し、芝の入り込むスペースを確保することで高いグリップ性能を発揮します。アッパーは日本人の足型に合いやすいつま先をゆったりさせた設計で、快適なラウンドをサポートします。



WO(白/オレンジ)

WY(白/黄)

BK(黒)

ありがとうの気持ち *Thank You!*

ブリヂストングループの仲間への感謝の気持ちを、リレー形式で紹介します。

一人前のドライバーに成長できました

持田さんとのご縁は、私がブリヂストンに入社する前にさかのぼります。前職の自動車メーカーで車両開発を担当していた際、ブリヂストン側では実は持田さんがそのタイヤ開発を担当されていたと入社後に知り、とても驚きました。

私はブルーピンググラウンド (PG) のドライバーとしてブリヂストンに入社しましたが、タイヤ開発は経験がなかったため、業務に対して不安を抱えていました。そんななか、持田さんは同じく海外の完成車メーカー向けタイヤを担当する先輩として、当時PGで受け入れていた海外からの訓練生と共に、丁寧に指導してくださいました。そのおかげで、現在は実車試験を担当する一員として、業務をやり遂げられるまで成長できました。「入社時はいろいろと不安もあったが、ここまで来られてよかった」と持田さんに言ってもらい、うれしかったことを今でも覚えています。前職から現在まで大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。

帰国後、また一緒に働けることを楽しみにしています。



From
Bridgestone Americas Tire Operations
Vehicle Dynamics Evaluation
Lead, Texas Proving Ground Engineer
佐々木 善一さん



To
(株)ブリヂストン
実車試験部 実車試験第2課
持田 晃さん



From
(株)ブリヂストン
久留米工場 製造第2課 加硫係 職長
後藤 司さん



To
©Takuyuki Saitou
ブリヂストン吹奏楽団久留米
音楽監督・常任指揮者
富田 篤さん

吹奏楽ファンから愛され尊敬される楽団に

2012年の末に、富田先生をブリヂストン吹奏楽団久留米の音楽監督・常任指揮者としてお迎えし、翌年から私は楽団のリーダーを務めることになりました。全国のお客様にブリヂストンの最高の音楽を届けることを目指し練習に励んでいましたが、その頃団長(久留米工場長)を務められた方々に、楽団の音楽をさらに素晴らしいものにするためにはもっと大切なことがあると助言され、富田先生と共に改革を行いました。富田先生は未熟者である私に毎日温かい言葉をかけてくださり、改革を実現するまで禁酒していた私に付き合ってくださいました。それがどれだけ心の支えになったでしょうか。私は2018年に楽団を引退しましたが、現在も富田先生、楽団のメンバーが歴代団長からの助言を実践してくれているおかげで、全国の吹奏楽ファンから愛され尊敬される、真の日本一の楽団となっていると感じます。本当にありがとうございました!

ご意見紹介

「こんにちは アローです!」について

- 森田さんとお仕事で一緒する機会がありました。あ、あの方が、初心を忘れてないで工場配属時代の資料を所持していることに感銘。
(ペンネーム: マリノスケさん)
- 新入社員研修での失敗エピソード。製造現場の課長さんの偉大さを感じました。
(ペンネーム: 特になしさん)

「師匠と弟子」について

- 仕事だけでなく一緒に教室に通うなど仲が良さそう読んでいて気持ちの良い記事だった。設計部門にいたので名前だけはよく見かける方の人となり垣間見ることができて良かった。
(ペンネーム: たーちゃんさん)

Present! 読者プレゼント

栃木・佐野らーめん & 福岡・久留米 ラーメンセット

※関連記事 (P.24 ~ 25, P.28 ~ 30)もご覧ください
※写真はイメージです。



20名様

ご応募はこちらから

ペーパーレス化に伴い、Webからの応募のみ受け付けとさせていただきます。下のQRコードよりアクセスの上、ご回答ください。

応募締め切り
2025年9月12日(金)

※回答フォーム専用ページにアクセスします
※アクセス時にIDやパスワードの入力は不要です



編集後記

今号ではBGA2024受賞テーマの「樹脂配管の水平リサイクル」、「EVERTIRE INITIATIVE」の記事を担当させていただきました。製品を原材料に「戻す」取り組み、みんなで応援していきましょう! (YO)

「師匠と弟子」の権藤さんと高田さん。最後に一緒に働かれていたのは10年以上前とのことですが、今も変わらぬ固い絆で結ばれていましたね。ブリヂストンに入社して3年目ですが、いつかそんな師匠に出会いたいです。| d') (IM)